

キャラクター名
天王 蛭 (あまおう ほたる)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ハヌマーン		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	17	性別	男
覚醒	探求	衝動	殺戮	初期侵食率	32	%
出自	貧乏	経験	長期入院	邂逅	自身	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	3	0	0			3	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	2	1	2			5	戦闘移動	14
社会	1	0	0			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	7		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
バルテックミサイル	RC	5r+7		+11		雷の槍、コンセ、振動球 装甲点無視。浸蝕率+7
エレクトロウェーブ	RC	5r+7		+13		雷の槍、サイレンの魔女 装甲点無視。侵蝕率7

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
	1				

所持品	
コネ：噂好きの友人	
コネ：UGN	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
神速の担い手(スピードスター)	P	N		
友人	P 憧憬	N 嫉妬		
桐生 嚙矢	P 友情	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
雷の槍	3	2	メジャー	視界		<RC>		
効果:	攻撃力+Lv*2+4 同エンゲージに攻撃不可							
イオノクラフト	1	1	マイナー					
効果:	移動距離+Lv*2 飛行状態で移動できる							
振動球	1	3	メジャー			<RC>		
効果:	攻撃力+Lv 装甲無視							
コンセントレイト:ブラックドッグ	2	2	メジャー			シンドローム		
効果:	クリティカル値-Lv							
雷の加護	2	2	マイナー					
効果:	判定ダイスを+Lv個							
見えざる僕	★	2	リアク			<RC>		
効果:	<RC>で回避							
サイレンの魔女	1	5	メジャー			<RC>		
効果:	攻撃力:+Lv*3 装甲無視 コンセントレイトは組み合わせられない							
スピードスター	★	3	セットアップ	至近	自身		Dロイス	
効果:	ラウンドの間、ダメージに+行動値 リアクション不可。 シーン1回							
加速装置	3	1	セットアップ					
効果:	ラウンドの間、行動値に+Lv*4							
ライトスピード	★	5	マイナー				100↑	
効果:	メジャーアクションを2回行う。C値+1							
タッピング&オンエア	★							
効果:	電波を傍受したり送信したりできるよ。							
軽功	★							
効果:	水面や壁面でも走れるよ。							
効果:								

「生まれた時から能力が決まって、敷かれたレールの上を仲良く大行進。……僕はさ、そんな世界の在り方ってやつが大嫌いなんだよ。」

おちゃらけた男子高校生。
人を脅かしたりからかうことが好きな反面、実際に彼が心を開くことは少ない。
少し下の妹があり、同じくオーヴァードである。妹からは嫌われているらしい。

貧乏な家庭に生まれた少年。妹と両親の4人家族だが金が無いながらも
父や母は明るく、妹も不自由はしていないと言う。蛭自身も表面上は気にしないように生きていた。
ある日家が火事になり、一命をとりとめた蛭は長期入院。父や母、妹も無事らしいが顔を見せられる状態ではないという。

晴れて退院の日、彼は全てを聞かされる。
父と母は心中するために家に火を着けたこと、本当は生き残ったのは自分と妹だけだということ、治療費を出したのは親ではなくUGNという組織だということ。
行き場を失った蛭(と妹)はレネゲイド適格者である可能性があったため引き取られ、UGNチルドレンとなる。

彼がレネゲイドウィルス力を欲し、自ら覚醒を希望するのでもそう先ではなかった。